

第16回 ビルクリーニング 技能競技会 東京大会 開催



5月17日(金)、ビルメンテナンス会館において第16回ビルクリーニング技能競技会 東京大会が開催された。今年は15社20名の選手が参加。この日のために磨き上げてきた技を披露し、競い合った。競技の結果、東京海上日動ファシリティーズ株^{みしまふりつ}の三島芙律氏(ゼッケン3番)が優勝の栄冠を手にした。

大会の目的

本大会は、選手たちが日頃の努力をもつて修めたビルクリーニング技能を十分に発揮する場として隔年開催しており、特に優秀な上位3名に金・銀・銅各賞を贈り讃えるとともに、後進への技術指導を推進することを目的としている。

また、上位2名(金・銀賞)は東京地区代表として選出され、全国への切符を手にする。全国大会は11月13日(15日)に「ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO 2019」(東京ビッグサイト)で開催される。

開会のことば

開会にあたって、当協会の佐々木会長(兼全国ビルメンテナンス協会東京地区本部長)より開会のことばがあった。

「来年開催される東京オリンピックに向けて、大型施設やビルの建設など、街は大きな変貌を遂げようとしています。そのような中で世界



佐々木会長

における日本、とりわけ東京はきれいな街であるというイメージを維持することが、ビルクリーニング業の果たすべき大きな役割であります。そのためには、本日の出場者の皆様のような、高度な技能と経験をお持ちの方々が必要であり、今後にも活躍いただくとともに、新たに従事する方々も技能を高めていただきたく思っております。

続いて、北山実行委員長より「いよいよ、ビルクリーニング技能競技会の当日を迎えました。各社多くの方々ご応援にお越しになっており、選手の皆様には大変なプレッシャーのかかる状況ではございますが、日ごろの練習成果を存分に発揮できますように、頑張ってください。」とあいさつがあった後、当日の注意点が伝えられた。



北山実行委員長

当日の注意点

本日お集まりいただきました応援団の皆様にも、各選手への熱い声援をお願い申し上げます。本競技会を大いに盛り上げていただきたいと思っております。最後になりますが、今大会の準備に

ご尽力いただきました関係者の皆様へ深い感謝の意を表しつつ、本日が盛会になりますようお願い申し上げます。開会のことはとさせていただきます。」

- ① 競技時間は20分。20分を経過した時点で競技終了。
- ② 競技は2コート同時に開始。1名が終了しても、もう1名が終了するまで拍手は控えること。
- ③ 見学席の最前列は競技ごとの入替制とし、競技実施者の関係者以外の着席は禁止。
- ④ 写真やビデオ撮影は可。ただし、所定場所以外での撮影や競技中のフラッシュ撮影は、禁止。
- ⑤ その他マナーを守った観戦を行うこと。



開会前、緊張の面持ちで待機する選手たち



観客席にも張り詰めた空気が漂う



ゼッケン6番

株東日本環境アクセス
つきむら かずたか
月村 一貴



ゼッケン3番

東京海上日動ファシリティーズ(株)
みしま ふりつ
三島 芙律

選手一覧

(敬称略)



ゼッケン7番

株小田急ビルサービス
なか い たくま
中井 拓篤



ゼッケン4番

興和不動産ファシリティーズ(株)
たなか こうさい
田中 広才



ゼッケン1番

太平ビルサービス(株)
かが み まこと
加々美 誠



ゼッケン8番

グローブシップ(株)
ふくなが さき
福永 沙希



ゼッケン5番

太平ビルサービス(株)
おかだ ひでひろ
岡田 英宏



ゼッケン2番

株小田急ビルサービス
あぎやま はやと
秋山 勇人



ゼッケン15番

三井不動産ファシリティーズ(株)
ささき たかし
佐々木 崇



ゼッケン12番

大成(株)
みね あゆみ
峯 あゆみ



ゼッケン9番

(株)アイザワビルサービス
たぢか むねひさ
田近 宗久



ゼッケン16番

テルウェル東日本(株)
てづか ゆうすけ
手塚 祐介



ゼッケン13番

テルウェル東日本(株)
なかじま まさみ
中島 雅己



ゼッケン10番

(株)第一ビルメンテナンス
あべ さとし
阿部 敏



ゼッケン17番

(株)ピーオーテクノサービス
おかべ まこと
岡部 亮



ゼッケン14番

(株)第一ビルメンテナンス
かしま ゆうた
鹿島 勇太



ゼッケン11番

東武ビルマネジメント(株)
いとう あきら
伊藤 晃



お手製の内輪で応援



ゼッケン18番

ANAスカイビルサービス(株)
おくやま ひるあき
奥山 宏昭



審査にも気合が入る



ゼッケン19番

(株)東日本環境アクセス
すどう あきら
須藤 明

競技スタート

競技前のセレモニーも終了し、会場の準備も整った。定刻通り9時20分に競技はスタートした。

Aコートはゼッケン1番・加々美誠選手(太平ビルサービス(株))。Bコートはゼッケン2番・秋山勇人選手(株小田急ビルサービス)の2名がスタンバイ。藤川審査委員長の合図で競技はスタートした。

2名の演技は緊張感を持ったまま黙々と行われた。会場は熱のこもった視線を向けつつも、静かに2名の演技を見守っていた。そして、Bコート秋山選手の「終わりました」のコール。その後、加々美選手の「終わりました」のコールと共に盛大な拍手が起こった。その後も張りつめた空気の中、各選手の演技が進んだ。大会独特の緊張感



ゼッケン20番

建総企画(株)
おおくほ のぼる
大久保 昇



藤川審査委員長

からか、演技に焦りが見えることもあったが、それでも、どの選手も気合のこもったきびきびとした動きを披露していた。そして、昼休憩が入り午後の競技も定刻通りスタートした。20名による競技会は、無事に15時40分に定刻通り終了し、審査員による審査に入った。



岡田選手(右)と月村選手(左)による汚水回収作業



トップバッター、加々美選手(手前)と秋山選手(奥)による表面洗浄作業



中島選手(手前)と鹿島選手(奥)による除塵作業



伊藤選手(手前)と峯選手(奥)によるモップの仕上げ拭き

競技の講評と審査結果発表

審査も終わり、講評と審査結果発表が藤川審査委員長より行われた。

「皆様、朝から長時間お疲れ様でした。おかげさまで事故やけがもなく、無事大会を終えることができました。皆様のご協力の賜物だと思っております。本当にありがとうございます。」

全体的な講評といたしました。皆様相当に練習を積まれていて、練習の成果が出ていますと感じました。勤務時間などで、頑張つてこられたのではないかなと思います。平均してレベルが上がっている中で、あとはやはり自分の得意な分野、例えばモップさばきやポリッシャーが上手であるなど、強みを出して自分をアピールしていくことが必要です。勉強していただきたいと思いま

す。また、皆様頑張つていただきましたが、開会のことばで佐々木会長がおっしゃったように、ここ何年か東京地区は全国大会で優勝などの結果を出せていません。何か演技にアピールすることが足りないのかなと思いますので、出場される方は、ぜひ頑張つて自分の演出や得意なところを考えてください。その他、審査員の中で出た意見ですが、競技者も団体も、指導者の方がどのように教えているかといったバックアップ

の体制を充実させることで、地区全体の底上げにつながると思いますので、ぜひ焦点を置いてやっていただきますようお願いいたします。

銅賞、ゼッケン1番。太平ビルサービス(株)、加々美誠さん。続いて銀賞、ゼッケン5番。太平ビルサービス(株)、岡田英宏さん。そして金賞は、ゼッケン3番。東京海上日動ファシリティーズ(株)、三島美律さん、以上です。

今回、入賞出来なかつた選手の皆様も、今日の経験を現場でも活かしてこれからも頑張つていただければと思います。

会場内は各順位の発表ごとに拍手が起き、金賞発表では、本日の一番の拍手が贈られた。



実行委員長・審査員・補佐員の皆様

賞状授与

引き続き、建築物衛生管理委員会の野口委員長より、賞状と副賞の授与が行われた。閉会に際し、野口委員長が挨拶を述べた。

金賞

東京海上日動フアシリティーズ(株)
三島 芙律氏



銀賞

太平ビルサービス(株)
岡田 英宏氏



銅賞

太平ビルサービス(株)
加々美 誠氏



閉会の挨拶



建築物衛生管理委員会 野口委員長

日の経験を糧として、明日からの業務に生かせるように頑張ってください。
本大会が盛況のうちに、またケガ人なく終了できましたこと、関係者皆様に対して御礼申し上げます。閉会のあいさつと代えさせていただきます。」
その後、記念撮影が行われ、本大会は終了した。

「本日は、朝から20名による白熱した競技が行われました。どの選手も日ごろの多忙なスケジュールを縫って今日に向けてご努力されたと思います。実力を十分に発揮できた選手もいれば、不運に見舞われた選手もあつたかと存じますが、各選手の得点は本当に僅差であり、甲乙つけ難いのが正直なところだと思えます。

この様な中で、金、銀、銅賞を受賞されました3名の皆様は、日頃の成果を十分に発揮され受賞されました。おめでとうございます。上位2名の方は全国大会に向け一層の研鑽を重ねていただき、ぜひ東京地区に全国優勝を持ち帰っていただきたいと思えます。惜しくもやぶれてしまった選手の皆様も、今



閉会式の様子

受賞者へのインタビュー

記者：皆様、ご受賞おめでとうございます。

まずは当日の演技の感想について、金賞の三島さん、一言お願いいたします。

●**三島氏**：入念にストレッチは行なったのですが、やはり審査員の方の目や、応援のプレッシャーを感じて、練習以上に全体的に体が硬かったですね。演技も自分の中では改善すべきところが多かったと感じています。



受賞者（左から銀賞：岡田氏、金賞：三島氏、銅賞：加々美氏）

記者：なるほど、銀賞の岡田さんはいかがでしょう。

●**岡田氏**：私も全体的に自分のリズムをつかめず、練習の成果は十分に発揮できず、悔いが残る部分があります。11月の全国大会に向けて、必死に練習をして良い成績を収められるように頑張りたいです。

記者：金賞・銀賞の方にとっても、本番の雰囲気や環境が大きな障害と成り得ることが伺えます。銅賞の加々美さんはいかがでしたか？

●**加々美氏**：自分の強みである「ウェットバキューム」でアシデントが起きてしまったのですが、冷静にリカバリーできたのは良かったです。最初は緊張感もありましたが、会社の応援のおかげでリラックスして臨めました。

記者：ミスが起きてても的確に処理することで、結果につながったわけですね。皆様本番で緊張があったとのことですが、具体的に資機材等で練習と違うと感じた部分がありますか？

●**三島氏**：コードは癖がついておらず、扱いやすかったです。その他も特に問題ありませんでした。

●**岡田氏**：私もコードはやりやすいと感じました。ただ吸水バキュームのヘッドが、特に引く時に吸ってくれないと感じました。

●**加々美氏**：岡田さんと同じく、吸水バキュームがうまく吸えないところがありました。

りました。他にポリッシャーのパッドを外すドライバーが大きかったので、多少戸惑いました。

記者：選手ならではの意見、ありがとうございます。今後の参考とさせていただきます。

話は変わりますが、練習はどのようにされていきましたか？

●**三島氏**：抽選会の日から約1か月、業務終了後に自社の研修センターで行いました。1日に通して3回ほど、時間で約3時間を週3回程度です。大会前1週間は毎日練習しました。

●**岡田氏**：私も1か月ほど、自社の研修センターで、業務の合間を縫って取り組みました。合計79回通して行い、本番に臨みました。

●**加々美氏**：私も岡田さんと同じ研修センターで、通して40回ほど行いました。

記者：皆様相当量練習を積まれたんですね。ちなみに、本大会で目標としていたタイムがあれば、教えてください。

(17分経過で補佐員からのお知らせがあり、20分超過で打ち切り)

●**三島氏**：17分の前半台を目安にしました。

●**岡田氏**：17分30秒あたりが、一番自分の力を出せるタイムだと感じていたので、それを目標タイムに設定していました。

●**加々美氏**：早すぎても何かおろそかにしてしまおうと考えて、17分後半〜18分を目標に取り組みました。

記者：速さと丁寧さのバランスが大事ということですね。あせってミスをしてしまった選手の方も見受けられたので、

自分のペースを大切にしてもらいたいと思います。

それでは最後に、今後の抱負をお願いいたします。

●**三島氏**：今回の大会に臨むにあたり、一から資機材の正しい使い方を学び直したので、自分が持つ現場で他の従業員の方に色々教えられるようになったと思います。全国大会では自分の実力を十分に発揮して、ぜひ優勝旗を持って帰りたいです。

●**岡田氏**：ビルクリーニング技能士の資格を取ったから、明らかに業務の効率が上がったという認識があります。コート内でもそうですが、次の作業のために道具をどこに置くかなどの考え方が非常に理にかなっていて、日々の業務で実践するとともに、後進の育成に役立てています。

全国大会に向けては、本日は悔しい結果に終わりましたので、持てる力全てを出し切って、優勝を勝ち取りたいと思います。

●**加々美氏**：順位は悔しいですが、持てる力は出し切れました。これからはサポートとして頑張っていきたいと思っています。

練習期間を通して、コートの中で行うようにお客様のところでも行うことの重要性を再認識しました。これからもこれで終わりではなく、後進へ広めていければと思います。

記者：皆様が今後とも各々の目標に向かって邁進されますことを祈念いたします。

本日はお疲れのところ、本当にありがとうございました。

(了)